

発見!発掘!

# 郷土の歴史

古代・中世・近世編

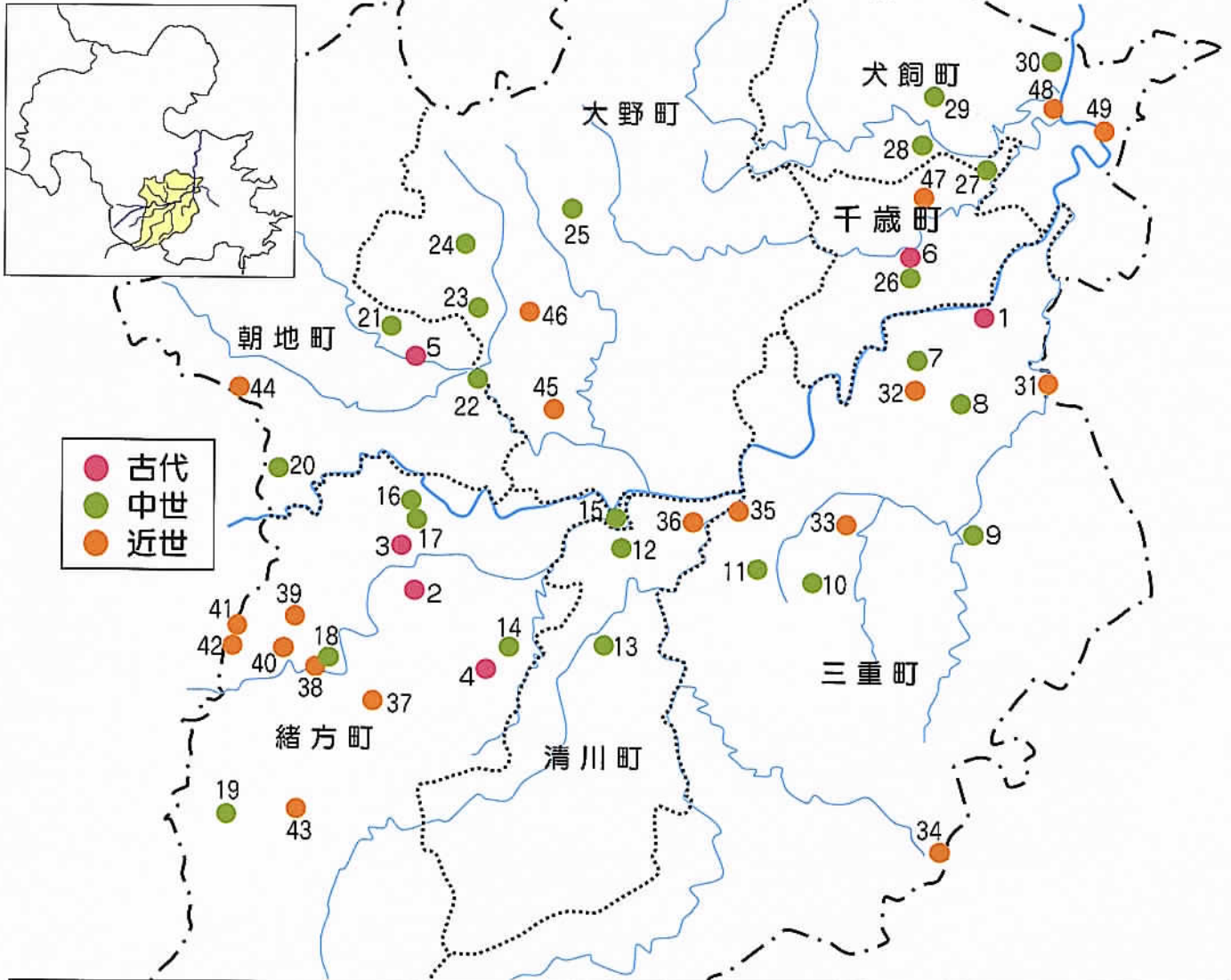


豊後大野市教育委員会

|                  |        |       |       |      |        |       |      |    |
|------------------|--------|-------|-------|------|--------|-------|------|----|
| 3万年前             | 1万2千年前 | 前4世紀頃 | 3世紀中頃 | 8世紀  | 13世紀   | 17世紀  | 19世紀 |    |
| 原                |        |       |       | 始    |        |       |      |    |
| 旧石器時代<br>(先土器時代) |        | 縄文時代  |       |      | 弥生時代   |       | 古墳時代 |    |
| 草創期              | 早期     | 前期    | 中期    | 後期   | 晩期     | 前期    | 中期   | 後期 |
| 古代               |        | 中世    |       | 近世   |        | 近代・現代 |      |    |
| 飛鳥時代             | 奈良時代   | 平安時代  | 鎌倉時代  | 室町時代 | 安土桃山時代 | 江戸時代  |      |    |

### 市内弥生時代・古墳時代主要遺跡位置図

(この本に掲載された遺跡)



- 1 菅尾磨崖仏 2 宮迫東西石仏 3 三宮八幡社経塚 4 大行事八幡社経塚 5 古市遺跡 6 大園遺跡
- 7 大辻山 8 惣田遺跡 9 松尾城跡 10 不二庵宝塔 11 大楽寺 12 大徳院遺跡 13 宝生寺
- 14 馬背畑地下式土坑 15 小牧城跡 16 高尾城跡 17 千人塚遺跡 18 普濟寺やぐら 19 烏嶽城跡
- 20 早尾原石幢 21 一万田館跡 22 小牟礼城跡 23 加原遺跡 24 高城跡 25 常忠寺 26 上門手遺跡
- 27 高添遺跡 28 大聖寺 29 高旗城跡 30 下野遺跡
- 31 虹潤橋 32 木ノ元山 33 市場遺跡 34 旗返峠 35 戸口遺跡 36 岩戸一里塚 37 監物石畳
- 38 辻河原石風呂 39 尾崎石風呂 40 小宛焼窯跡 41 中川久豊・久虎墓所 42 中川久貞墓所
- 43 小原遺跡 44 井上並古・並増墓所 45 郡山南遺跡 46 二本木茶屋場跡 47 五郎丸遺跡 48 犬飼港跡
- 49 吐合港跡

## ①古代

古墳時代に成立した地方の豪族と中央王権との政治的な結びつきがより強くなり、律令が<sup>りつりょう</sup>体制化した飛鳥・奈良・平安時代を含む時代が古代と呼ばれます。新しい政治制度等が定まって、全国に国・郡という地方行政単位が成立し役所が設置されます。また、命令や情報の伝達、物資輸送などを目的として、中央と地方国衙を結ぶ官道と<sup>かんどう</sup>と呼ばれる交通路の整備も行われるなど、中央集権の政治社会に地方も取り込まれていきます。

平安時代になると荘園の形成とともに、律令の支配体制が衰退し、貴族中心であった政治に武士が台頭するようになります。武士は寺院建立や磨崖仏の造立など、仏教の普及にも深く関わるようになり、強い政治力を持つ権力者へ成長していきます。

### ●古代の豊後大野市

全国に60あまりの「国」が置かれましたが、大分県域には豊後国と豊前国の一部が相当します。豊後国には郡が8箇所置かれ、その一つ、大野郡の大部分が現在の豊後大野市です。大野郡に置かれた里（郷）は三重・緒方・大野・田口の4箇所と記されており、現在につながる地名もこの頃に成立したことがわかります。これらの行政単位にはそれぞれ役所が置かれ、税収や戸籍など各種の帳簿作成や役所間の通知など事務処理が行われていました。大野郡の役所である大野郡衙の所在地は三重付近にあったと推定されていますがはっきりしていません。

また、官道の要所に設置された<sup>えきか</sup>駅家として大野郡には三重駅と小野駅という2箇所が置かれたとされており、馬を常備するなどして通行をスムーズにするための施設と考えられています。そのうち三重駅は三重町市場付近、小野駅は佐伯市宇目の小野市と推定されています。



古代の官道と郡名

## ●市内の古代遺跡

豊後大野市内の古代遺跡は非常に少ないのですが、いくつか見ることができます。

### 条里跡

律令制のもと土地は公有化され、人々に等しく口分田を配給するための班田収受法<sup>はんてんしゅうじょう</sup>が制定されて、このときに条里制が施行されました。条里とは古代の土地区画制度で、一辺約108m四方の碁盤目状の地割が全国で行われました。8世紀より始まり、12世紀頃には次第に廃れていったと考えられています。市内では唯一、緒方町の井上・野尻付近一帯にその条里区割りの名残が確認されています。



緒方平野の条里跡

『緒方町誌総論編』 2001 緒方町

### 経塚

平安時代より仏法の消滅を恐れる末法思想が広がり、仏教の経典を入れた経筒<sup>きょうづつ</sup>を地中に埋納することが各地で流行し、これらは経塚と呼ばれています。市内では緒方町の2箇所<sup>2か所</sup>で5個体分の経筒が見つかっています。いずれも江戸時代に偶然掘り出されたもので、うち3個体が現存しています。

『緒方町の文化財』 1998 緒方町教育委員会

#### 三宮八幡社境内出土経筒（緒方町上自在）

永久三年（1115）の銘があり、県下でも最古級のもので、願主が父母孝養のため納経したことが刻まれています。宝暦8年（1759）に発見された際に岡藩主によって記念碑（古器をうずむる碑）が建てられています。

なお、三宮八幡社からもう一つ文政7年（1824）にも経筒が発見されたことが記念碑に記録されています。現在その経筒は失われていますが、少なくとも2基の経塚があったことが考えられています。



「古器をうずむる碑」



#### 大行事八幡社境内出土経筒（緒方町大化）

大治元年（1126）の銘がある細身の銅経筒です。また、もう一つ無銘ですが積上式と呼ばれる3段の筒を重ねて構成されるものもあり、九州北部の特有な形式の経筒です。大行事八幡社からもう一つ大治三年銘の経筒もあったという記録もあり、少なくとも3個の経筒があったと考えられます。

まがいぶつ  
磨崖仏

大野川流域には凝灰岩の崖面に彫刻された仏像が平安時代後期より中世にかけて数多く造られています。天台系の仏教文化が浸透し、当時新興勢力である大神一族などの武士の財力や権力のもとで造られたと考えられています。規模が大きく、彫刻作品としても優れたものが多く知られており、国や県の指定文化財となっているものもあります。



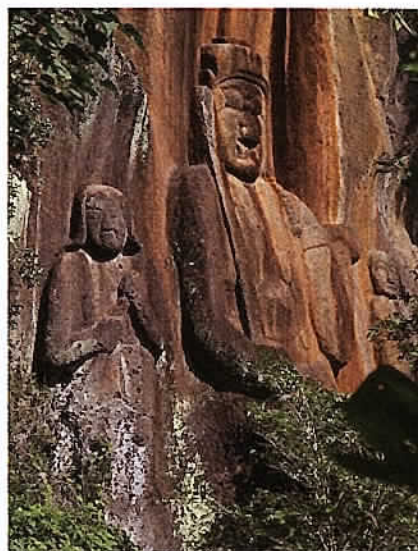
菅尾磨崖仏（三重町浅瀬） 大野川沿岸の崖面に彫られており、左から千手観音・薬師如来・阿彌陀如来・十一面観音・毘沙門天があり、熊野権現を勧請したと推定されています。平安時代後期の作と推定され、国の史跡と重要文化財の二重に指定されています。



宮迫東石仏・宮迫西石仏（緒方町久土知）平安時代後期の緒方氏による造顕と伝えられています。東石仏は中尊に大日如来、左右に毘沙門天と不動明王、さらに両側に金剛力士像を配置し、西石仏は右から阿彌陀如来、釈迦如来、薬師如来の三尊仏を配置しています。



犬飼石仏（犬飼町田原）鎌倉時代の製作と考えられる不動明王と童子2体を脇侍とする三尊形式の石仏です。付近に石塔群など多くの信仰の跡を残しています。



普光寺磨崖仏（朝地町上尾塚）諸説ありますが、鎌倉時代の製作と考えられる不動明王三尊像です。像高は11mもあり、県下最大級の規模です。



大迫磨崖仏（千歳町長峰）鎌倉時代後期の作と考えられている大日如来坐像で、岸壁の彫刻に土を塗って塑像とする技法で造られています。

### 古市遺跡（朝地町市万田）

市万田川の左岸に所在し、発掘調査で平安時代前期（9世紀）と室町時代（14～15世紀）の遺構遺物が見つかり、祭祀跡の遺跡と考えられています。

『田村遺跡・池在遺跡・古市遺跡・一万田館跡』1994 朝地町教育委員会

### 大園遺跡（千歳町下山）

茜川右岸の段丘上に所在し、発掘調査で12世紀後半（平安時代後期）の掘立柱建物や土坑が見つかりました。

ほかにも駒方池迫遺跡（大野町）や郡田遺跡（三重町）などで平安時代の遺物の出土がみられます。

『大園遺跡』2001 大分県教育委員会



土師器坏・褐釉陶器壺・黒色土器  
（駒方池迫遺跡）



土師器脚付皿（古市遺跡）



調査全景（大園遺跡）

### ●古代の土器

須恵器生産は壺や甕など一部を除いて減少し、食器として素焼きの土師器が多く焼かれ、内面や全面を黒色に焼いたものもあります。また、陶器も使われるようになり、中国から輸入されたものや緑釉陶器などが加わるようになります。



須恵器甕  
（三重町採集）



土師器壺形土器（古市遺跡）



土師器脚付皿（古市遺跡）



土師器坏（古市遺跡）

## ②中世

平安時代の終わり頃より台頭してきた武士による政治が行われるようになった時代で、鎌倉・室町時代などは中世と呼ばれます。中央には幕府による政権が確立し、地方には有力御家人を守護として任命し、封建制度による支配体制を確立していきました。各地の守護は行政上の実権を握るようになり、豊後には大友氏が代々守護大名として統治していきます。21代目の大友義鎮（宗麟）の頃には九州北部に勢力を広げ、南蛮貿易など対外政策を積極的に進めて戦国大名として成長していきました。一方、各地の守護との勢力争いも激化して、土塁や堀などの防御施設を備えた館や山城などが数多く築かれるなど、戦乱の時代を迎えるようになります。中世末期には薩摩の島津氏による侵攻を受けた大友氏の勢力は衰え、天下を統一した豊臣秀吉によって豊後を追放され、近世の小藩分立の時代を迎えていきます。

### ●中世の豊後大野市

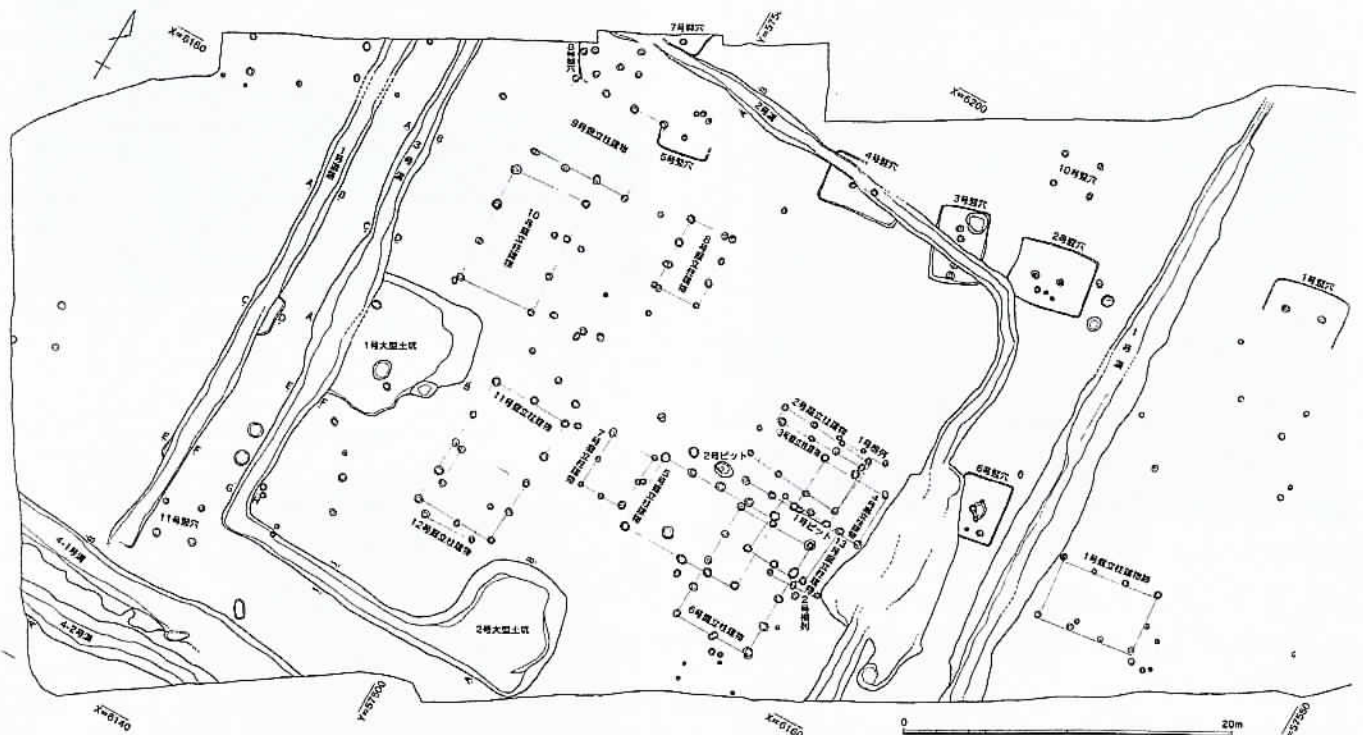
幕府から守護に任命された大友氏による支配のもと、有力家臣で一族でもある志賀氏、戸次氏、一万田氏などが領主として支配していきます。南北朝時代を経て、戦国時代になると島津氏との抗争などに備えて山城などが各地に築かれていきます。また、神仏信仰も盛んになり寺社の創建や石造物の造立などが盛んに行われています。

### ●中世の建物跡

奈良時代以後竪穴住居は姿を消し、人々は掘立柱の住居で暮らすようになります。周囲を溝で囲まれた有力者の住まい（屋敷）も見つかっています。

**高添遺跡（千歳町長峰）** 弥生時代の集落遺跡として有名ですが、掘立柱建物群や地下式土坑など、中世の遺構も数多く見つかっています。出口地区からは40m四方の溝に囲まれた屋敷跡が見つかっています。16世紀から18世紀にかけての200年間にわたる時期と推定されます。

『一般国道57号中九州横断道路建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(1)』 2007 大分県教育庁埋蔵文化財センター



高添遺跡出口地区遺構配置図

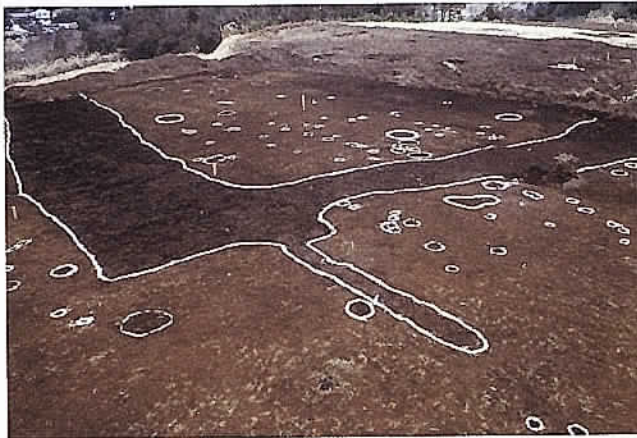


掘立柱建物跡と溝（高添遺跡）



### 惣田遺跡（三重町菅生）

掘立柱建物や土坑や柵状の柱穴列などが見つかっています。遺物から13世紀末から15世紀末にかけての森迫氏の関連遺跡とも考えられています。『惣田遺跡』 1983 三重町教育委員会

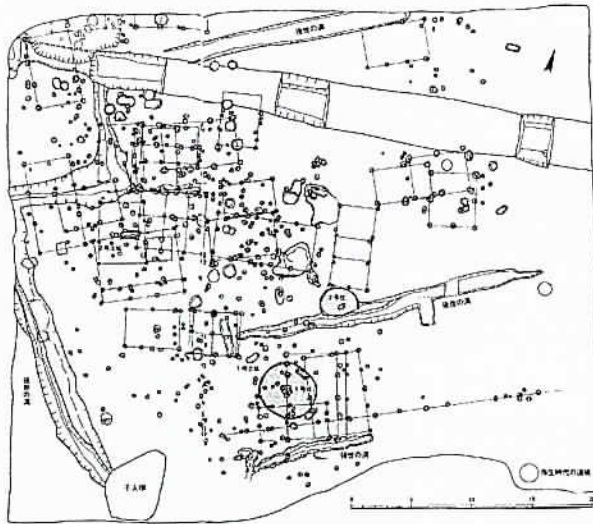


掘立柱建物跡と溝（惣田遺跡）

### 下野遺跡（犬飼町下津尾）

二重の方形に廻らす溝の内部に掘立柱建物群が見つかっています。戦国期の屋敷または寺院などの施設と想定されています。

『下野遺跡 上津尾遺跡』 1997 犬飼町教育委員会



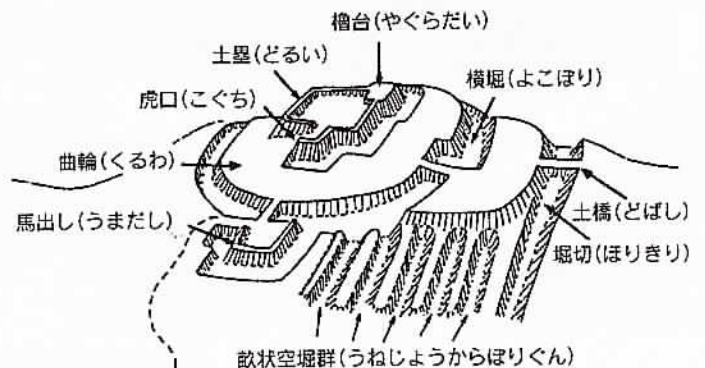
惣田遺跡機構配置図



掘立柱建物跡（下野遺跡）

## ●中世城館

市内には多くの城館の所在が知られていません。領主である武士たちは戦いに備える拠点として防御を固めた館跡<sup>やかたあと</sup>や山城を築くようになります。兵士が立てこもる平坦地（曲輪）や外からの侵入を防ぐ堀や土塁などの構築物を今でも見る事ができます。



中世山城の名称概念図



## 松尾城（三重町松尾）

島津氏による豊後侵攻の拠点となった城跡です。山頂は平場と削り残しの土塁があり、眺望の利くところから、物見の施設を置いていたと考えられます。北側中腹より麓にかけて階段状に多数の曲輪があり、多くの陶磁器なども見つっています。麓にあった広福寺という寺院を利用した陣跡と推定されています。

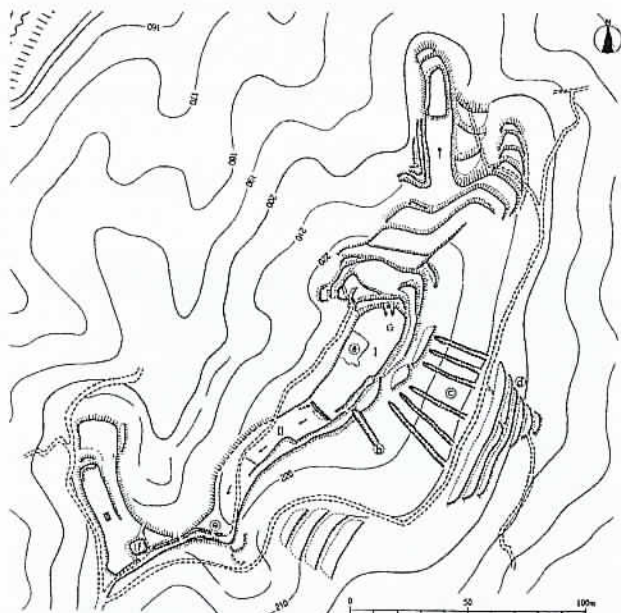
『大分の中世城館第四集総論編』 2004 大分県教育委員会



松尾城調査状況



松尾城縄張図



高尾城縄張図

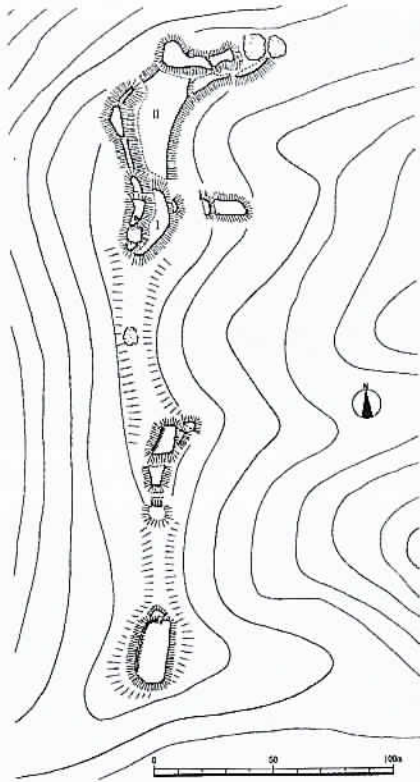


高尾城調査状況

## 高尾城（緒方町軸丸）

周囲を切岸で囲まれた主郭しゅかくと土塁たてほりや竪堀群をはじめ、多くの曲輪群が造られています。多くの陶磁器も見つかっており、緒方武士団が立てこもって島津氏と戦ったと伝えられています。

『大分の中世城館第四集総論編』 2004 大分県教育委員会



烏嶽城縄張図

### 烏嶽城（緒方町中野・小原）

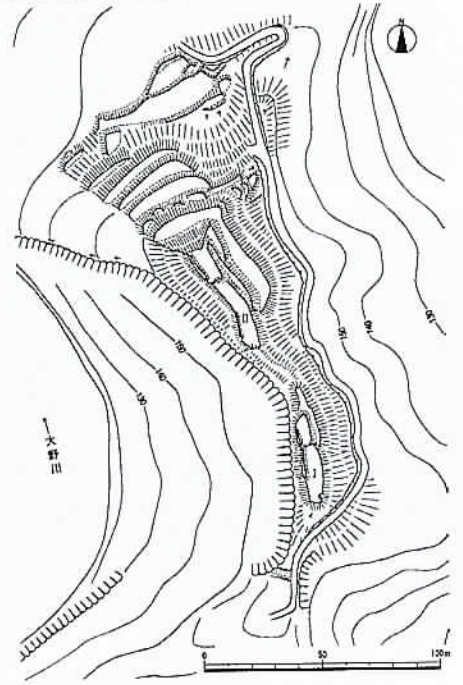
標高683mの山頂にあり、主郭部は広い平坦面が造られ、削り残しの土塁が片側にあります。尾根伝いの高所にいくつも平場が設けられています。緒方武士団が立てこもって島津氏に抵抗したと伝えられています。

『大分の中世城館第四集総論編』 2004 大分県教育委員会

### 小牧城（緒方町野尻）

大野川と緒方川に挟まれた丘陵上にあり、尾根の先端を主郭とし、周囲に帯曲輪を廻らせています。緒方や清川付近の武士団が立てこもって島津氏と戦ったと伝えられています。

『大分の中世城館第四集総論編』  
2004 大分県教育委員会



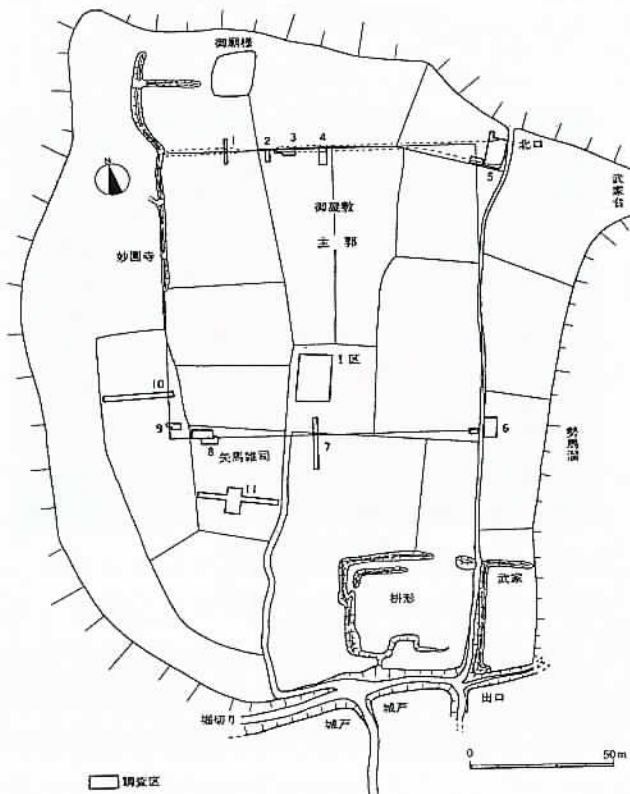
小牧城縄張図

### 一万田館跡（朝地町池田）

館地区の台地上に所在する一万田氏の館跡で、居住した屋敷と城郭の両方の機能を持っていたと考えられています。現状で

残されている土塁と発掘調査で検出された堀などから一辺100mほどの規模の主郭に、南側に虎口と考えられる区画、堀切などが推定されます。15世紀後半から16世紀後半まで存在し、居住する屋敷として、また城郭としての両方の機能が考えられます。

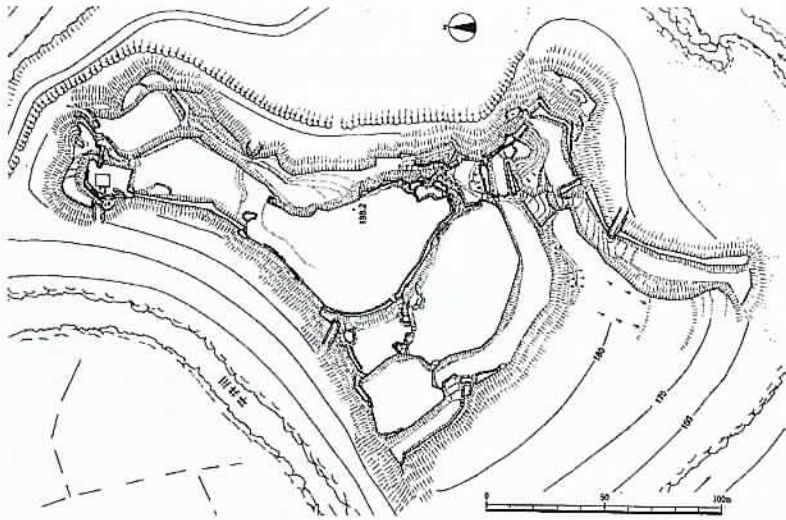
『田村遺跡・池田遺跡・古市遺跡・一万田館跡』 1994  
朝地町教育委員会



一万田館跡縄張図



一万田館跡調査状況

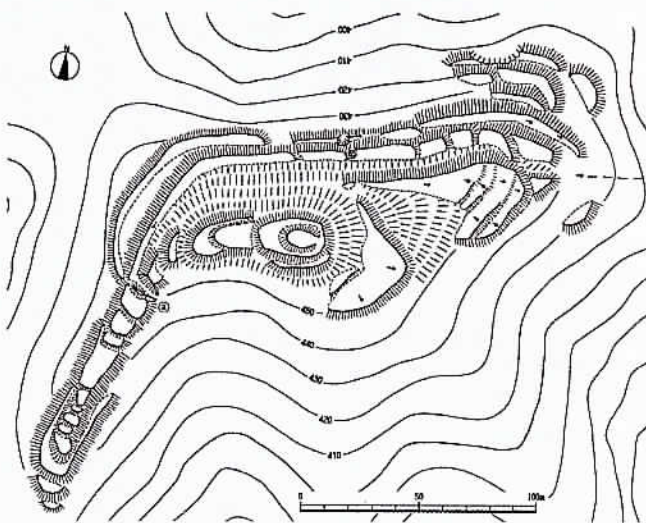


小牟礼城跡縄張図

### 小牟礼城（朝地町市万田）

平井川と酒井寺川に挟まれた丘陵上に所在し、広大な主郭に一部に土塁を廻らせています。虎口は枡形で馬出しが設定されており、一部石垣も見られます。城郭としての記録はありませんが、近世初頭の中川氏の支城として築城されたと推定されています。

『大分の中世城館第四集総論編』 2004 大分県教育委員会



高城跡縄張図

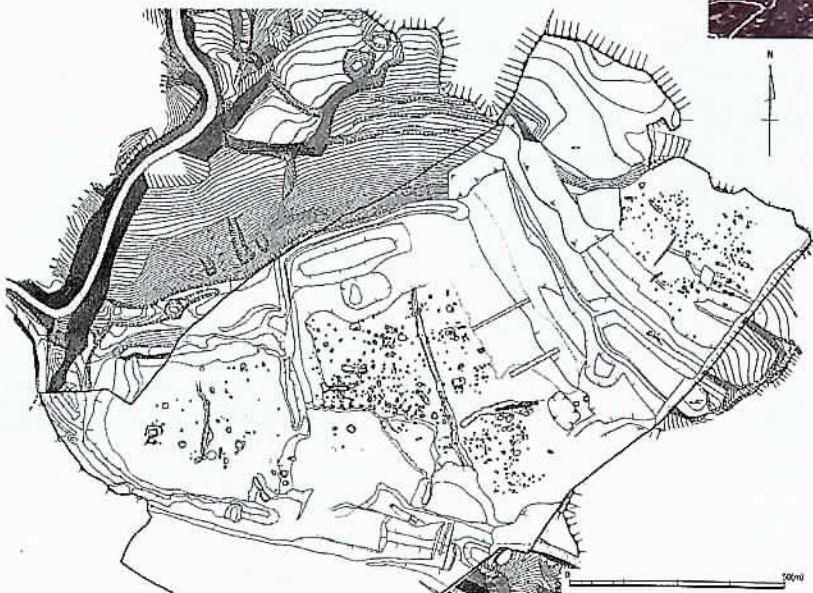
### 高城（大野町酒井寺）

大城と小城の2箇所の山頂にあり、尾根伝い連続する小曲輪と帯曲輪が数多く造られ、特に切岸は丁寧に造成されています。渋谷氏の居城であったといわれていますが、戦国期に改変を受けていると考えられます。

『大分の中世城館第四集総論編』 2004 大分県教育委員会



上門手遺跡調査状況



上門手遺跡縄張図

### 上門手遺跡（千歳町下山）

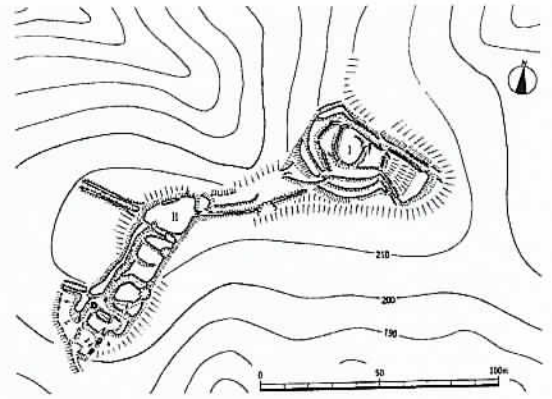
道路建設により発見され、調査が行われた館城で、堀切で遮断された丘陵上に土塁や切岸で館としての防御施設があります。曲輪内より掘立柱建物や地下式土坑などがあり、陶磁器類の出土より15世紀後葉～16世紀前葉の時期が考えられます。

『上門手遺跡』 2004 大分県教育委員会

## 高旗城（犬飼町高津原）

独立した山上にあり、主郭は二つの頂上にあります。東側の主郭は土塁を持つ平場に腰曲輪を配置しており、土塁のある尾根を伝いに西側主郭に続きます。西側主郭は階段状の曲輪に塹堀と土塁で通路を形成し、虎口部分としていたと考えられます。築城についての詳しい記録は不明です。

『大分の中世城館第四集総論編』 2004 大分県教育委員会



高旗城跡縄張図

## ●大友氏関係の寺院遺跡



常忠寺（大野町藤北）<sup>よしなお</sup> 初代能直は記録では京都で没していますが、墓石と伝えられる五輪塔があります。菩提寺は近くの勝光寺とも云われています。



大楽寺跡（三重町久田）<sup>ちかとき</sup> 4代の親時の菩提寺と推定されています。今は山林となっていますが、親時夫妻の供養塔と推定される宝塔があります。



大聖寺（犬飼町柴北）<sup>ちかつな</sup> 13代親綱の菩提寺と推定され、墓塔とされる宝篋印塔があります。また近くの阿蘇社にある宮脇宝塔も墓塔と伝えられています。



宝生寺（清川町宇田枝）<sup>ちかたか</sup> 14代親隆の菩提寺と推定されています。中世の石塔がいくつかありますが、親隆の墓石等は不明です。

## ●石造物

仏教は鎌倉時代以降には民衆に広く信仰されるようになり、様々な信仰を反映して様々な形の石造塔が造られるようになります。特に凝灰岩が多く利用され、市内でも代表的な文化財の一つとして数多く残されており、人々の篤い信仰心を物語っています。



長寿庵五輪塔（大野町長畑）

### 五輪塔

仏の世界を構成すると考えられて空・風・火・水・地を表わした形の塔です。墓塔や供養塔として造立されました。

### いたび板碑

板のように平らに形を整えた石塔で、墓碑や供養のために極楽往生などの様々な信仰を記して造立されました。



岳川板碑（朝地町綿田）



新飼宝塔（犬飼町黒松）

### 宝塔

円筒型の塔身に笠・相輪を載せた形の塔で、経文を納めたり供養のために作られました。

### ほうきょういんとう宝篋印塔

経文を納めたり供養のためのもので、特に笠や基礎の段形や笠の四隅の突起などが特徴的な様式の塔です。



法泉庵宝篋印塔（三重町西泉）



川辺五重塔(三重町川辺)

### もうとう層塔

宝塔と同じく経文を納めたり供養のためのもので、笠が三重や五重などに重層されています。

### せきどう石幢（六地藏塔）

地獄落ちからの救済を祈願したものです。幢身に笠のみの単制と、竈部や中台を間に載せる重制の2種類があります。



後藤家石幢(清川町天神)



大辻山角塔婆  
(三重町井迫)



漆生笠塔婆  
(千歳町下山)

かくとうば かきとうば  
角塔婆・笠塔婆

角柱状の塔身に頭部が方錐体の石塔が角塔婆で、笠が乗せられているのは笠塔婆と呼ばれます。

むほうとう  
無縫塔

元は僧侶の墓石として造られたもので、単制や重制などの形式があります。



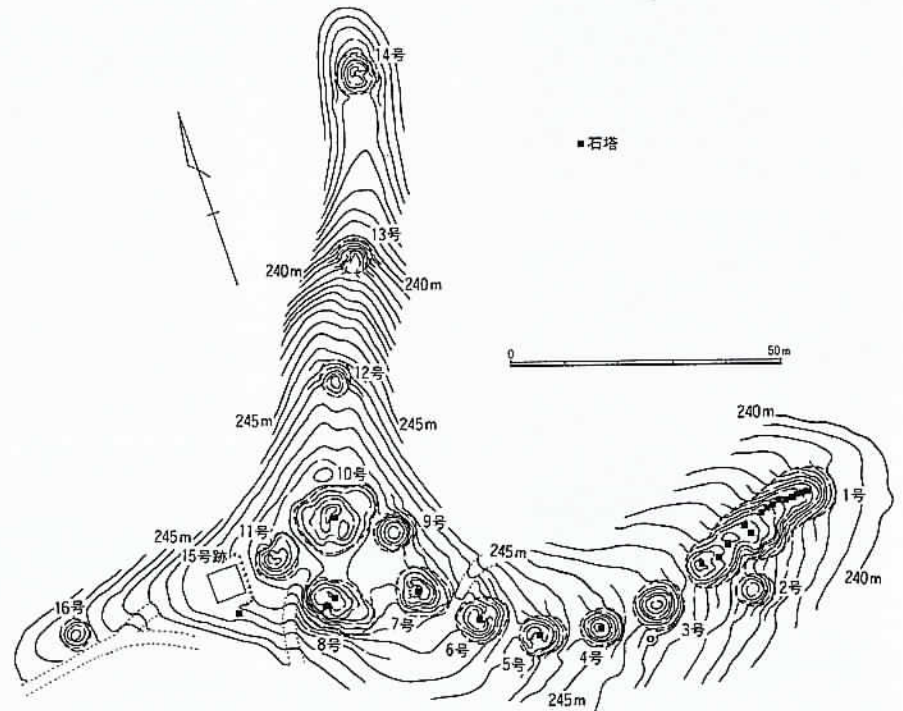
中小坂無縫塔  
(三重町小坂)

## 大辻山

(三重町井迫・上田原)

標高約250mの山頂より尾根伝いに盛土による塚15基の上に各種の石造物24基が造立されています。石造物は文禄5年(1596)から慶長8年(1603)までの紀年銘が確認できますが、発掘調査により、それより古相を示す土師器が塚より出土しています。埋葬などの遺構は特に検出できないため、信仰上の塚と考えられますが遺跡の詳しいことはまだ不明です。

『大分県埋蔵文化財年報3』1995  
大分県教育委員会



大辻山地形実測図



大辻山近景



大辻山調査状況

### 早尾原石幢（朝地町上尾塚）

暦応2年（1339）銘のある単制石幢で、傾きを直すための保存修理事業を行っています。それに伴う発掘調査の際に墨で経文が書かれた一字一石の礫石経が出土しています。



早尾原石幢



出土した礫石経

### 石造（不二庵）宝塔 （三重町本城）

暦応3年（1340）銘のある宝塔で、破損の接合や傾きを直す保存修理を行っています。それに伴う発掘調査の際に基壇の下より14世紀の土師器片が出土しています。

『大分県埋蔵文化財年報6』 1998 大分県教育委員会



石造（不二庵）宝塔



石造宝塔より出土した土師器

### ●中世の墓地

#### 加原遺跡（大野町桑原）

古墳時代の住居跡のほか中世の建物などの遺構が見つかっています。伸展葬の土葬墓もあり、鉄釘の出土により木棺があったことがわかり、土師器や短刀などが副葬されています。

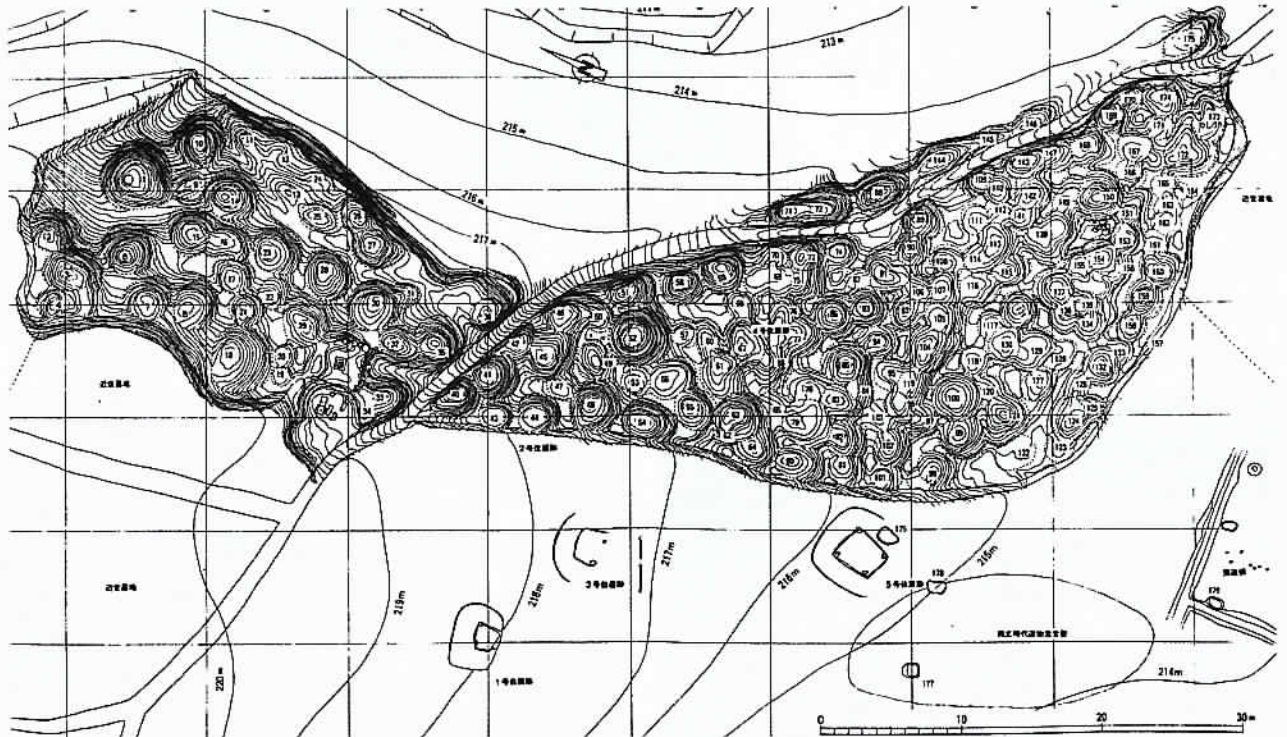


木棺墓（加原遺跡）

## 千人塚遺跡（緒方町下自在）

地表面で盛土による塚が170基も集中している墓地群で、室町時代から江戸時代始めの200年間にわたって営まれたものです。盛土内には土葬墓と火葬墓があり、それぞれさまざまな埋葬形態がみられます。塚の一部には五輪塔などの墓標が建てられているものもあります。

『千人塚遺跡』 1999 緒方町教育委員会



千人塚遺跡墳墓実測図



土葬墓

土葬墓 円形や方形の墓穴（土壙）に埋葬しています。

集石墓 土壙の上に石が集められています。



集石墓



火葬墓

火葬墓 土壙内が火で焼かれています。石敷の中で火葬した跡も見つかっています。



石敷の火葬墓



ちかしきどころ  
●地下式土坑

竪坑を入口として地下室状の空間を掘り込んで造られた遺構です。墓の一種とする説や貯蔵などの倉庫説、信仰の施設説などその目的は不明ですが、いくつかの遺跡で所在が知られています。

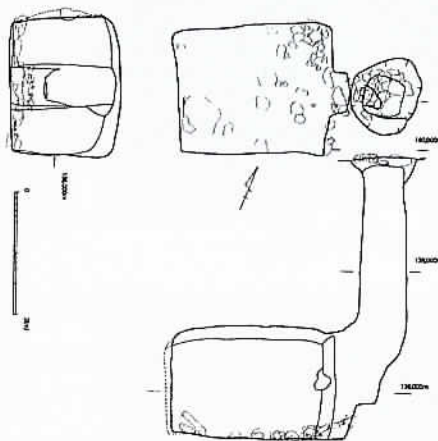
上門手遺跡（千歳町下山）

城館内に3基見つかり、うち1基は入口を石で塞いだ状態で良好に残り、地表から約4mの深さに2m四方ほどの部屋が造られています。

15世紀後半～16世紀前半頃の陶磁器や石臼などが見つかっています。【上門手遺跡】2004 大分県教育委員会



1号地下式土坑内部（上門手遺跡）

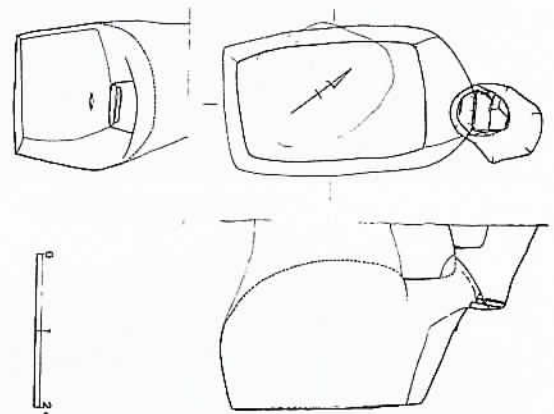


1号地下式土坑実測図（上門手遺跡）

高添遺跡  
（千歳町長峰）

石五道原地区で1基、土木園地区2次調査で6基が見つかり、石五道原地区の土坑は、入口に石を敷いた足場があり、内部は長さ2.6mの長方形の部屋が造られています。

【高添台地の遺跡】1989 千歳村教育委員会

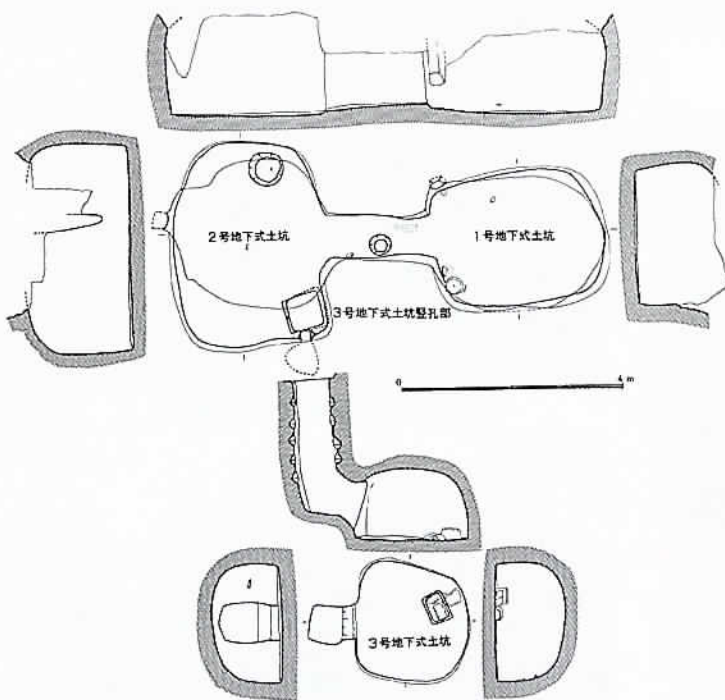


地下式土坑実測図（高添遺跡石五道原地区）

大徳院遺跡（清川町砂田）

2基の地下式坑が通路を挟んで双室状に造られ、さらにもう1基が竪穴の地下に造られています。

【大徳院遺跡発掘調査報告書】1993 清川村教育委員会



地下式土坑実測図（大徳院遺跡）



地下式土坑（大徳院遺跡）



普濟寺やぐら

### 馬背畑地下式土坑（緒方町馬背畑）

地元ではキリシタン礼拝所という伝承がありますが、中世の地下式土坑の一種とみられます。2基が確認されており、2号地下式坑は3m四方の方形に掘られて、二段に部屋が造られています。

### 普濟寺やぐら（緒方町辻）

岩を削り貫いて正方形の部屋を造り、永正四年（1507）銘のある宝篋印塔が建てられています。関東地方で多くみられるやぐらと類似した遺跡ですが、時期的に違いがあり、謎の多い遺跡です。『緒方町の文化財』1998 緒方町教育委員会



馬背畑1号地下式土坑



ふいご羽口と鉄滓（一万田館跡）

### 製鉄関連遺跡

鉄素材を利用したさまざまな道具が使われるようになり、それらの製作跡と思われる遺物が一万田館跡や惣田遺跡などで見つかっています。

また、三重町中尾区の甲斐本（賀井本）鍛冶は、各地の鍛冶集団を統括する大友氏の御用鍛冶であったと推定されており、近世中頃までの多くの作刀例が現存しています。鍛冶施設の調査は行われていませんが、墓地周辺で鉄滓などが採集されています。

## ●中世の遺物

### 土師器

素焼きの土器で、皿や碗などの器種が多く、主に日常の食器として使われたと考えられています。京都系土師器と呼ばれる手づくねで作られた皿状の土器もあります。



土師器坏と皿（惣田遺跡）



土師器坏と皿（一万田館跡）



京都系土師器（千人塚遺跡）

## 陶器・磁器

国産の瀬戸・美濃焼、備前焼などの国産陶器が日常品として全国で流通し、市内でも多くの中世の遺跡で見つかっています。中国との貿易が活発化し、青磁や白磁などをはじめとする磁器が大量に輸入されるようになり、15世紀以後には青花と呼ばれる染付磁器が現れます。また、南蛮貿易による東南アジアからも陶器が輸入されるようになります。



すりばち  
播鉢（高添遺跡）



中国産磁器（松尾城跡）



備前産陶器甕（緒方町出土）



中国産陶器・タイ産陶器（松尾城跡）



陶器甕・天目碗・土師器坏（松尾城跡）

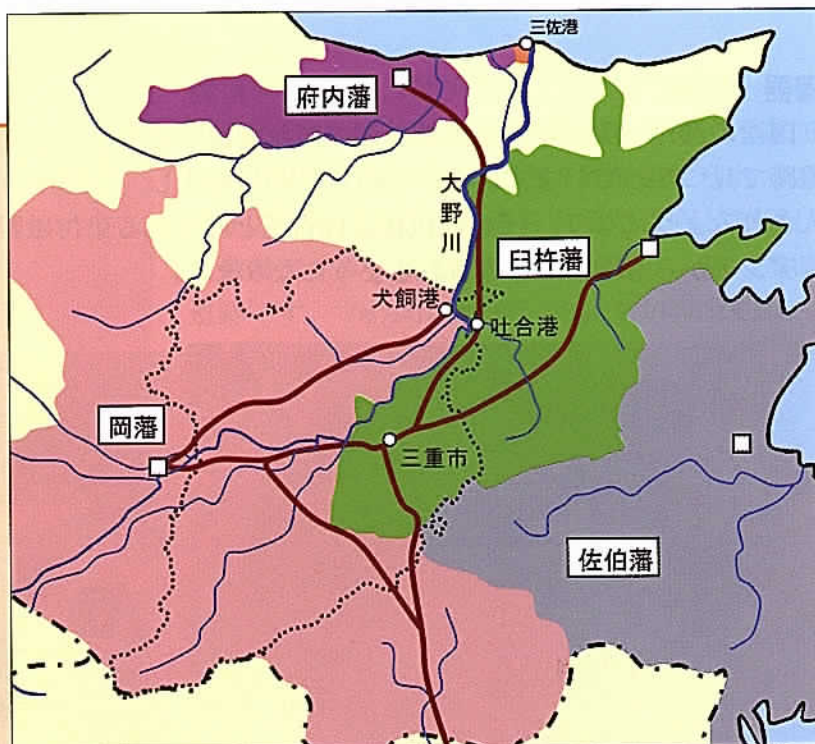


さしげに  
緡銭（高添遺跡）

### ③近世～近代

徳川氏を将軍とした幕府中心の政治が行われた江戸時代が近世です。全国の主要地を幕府が直轄とし、それ以外は全国に藩を設置して任命した藩主による統治が行われた幕藩体制を確立しました。各藩では年貢収入を増やすため、井路開削や耕地開拓を行い、窯業の開設や鉱山開発など、交通や経済を発達させる整備を積極的に行っています。

江戸時代は250年続いた後明治維新を迎え、近代国家として歩み始めます。



豊後大野市周辺の近世藩域と主要街道

#### ●近世の豊後大野市

大分県域内は8藩と7領がひしめく小藩分立となっており、市内は岡藩と白杵藩の領域の一部となっています。豊後大野市の多くを占める岡藩は竹田市岡城を中心として、7万石を領域としていました。藩主は中川氏で、13代続いて明治維新を迎えています。

三重町北部と犬飼町東部の白杵藩は白杵城を中心に、現在の白杵市やその周辺を含めた5万石を領有していました。藩主は稲葉氏で、15代続いて明治維新を迎えています。

#### ●各種施設の遺跡

##### 市場遺跡（三重町市場）

白杵藩の地方行政施設として設置された三重代官所だいかんしよは天保10年（1839）に泉原の台地上に設置されました。現在の三重第一小学校敷地内より見つかった大型の建物跡が代官所建物と推定されます。

「三重地区遺跡群発掘調査概報Ⅳ」 2000 三重町教育委員会



大型建物跡（市場遺跡）



川岸の石畳（犬飼港跡）

##### 犬飼港跡（犬飼町犬飼）

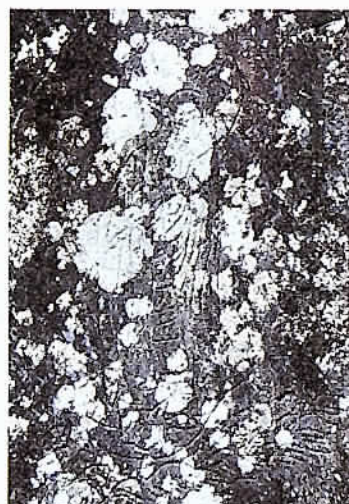
岡藩の物資輸送や参勤交代など河川交通の要衝として明暦2年（1656）頃に整備されました。明治以後も鉄道が開通するまで主要交通路として発達し、多くの家屋や店舗が並んで賑わっていました。今でも川沿いに残る石畳や犬飼役所・御蔵所などの施設跡等を見ることができます。

港跡よりやや下流の柴北川と大野川の合流付近に波乗り地蔵と呼ばれる地蔵像が線刻されています。小舟に乗って波に浮かぶその姿は、航行の安全祈願のため刻まれたといわれています。

『犬飼町の文化財』 2005 犬飼町教育委員会



犬飼役所跡



波乗り地蔵（犬飼港）

### 吐合港（犬飼町久原）

白杵藩によって整備された河川港で、三重や野津方面の年貢米を集積していました。

他にも三重町宮野にも細長港と呼ばれる港跡があり、幕末より明治頃繁栄していたことが記念碑（細長繁栄記）によって知ることができます。

『犬飼町誌』 1978 犬飼町誌刊行会



吐合港付近遠景

### 戸口遺跡（三重町久田）

藩境の街道沿いに置かれた番所は通行人の監視などを行っていました。奥嶽川沿いの斜面にある街道跡に、白杵藩の岩戸口番所が置かれていたと推定される石垣などが見つかっています。

『戸口遺跡』 2002 大分県教育委員会



伝番所跡（戸口遺跡）

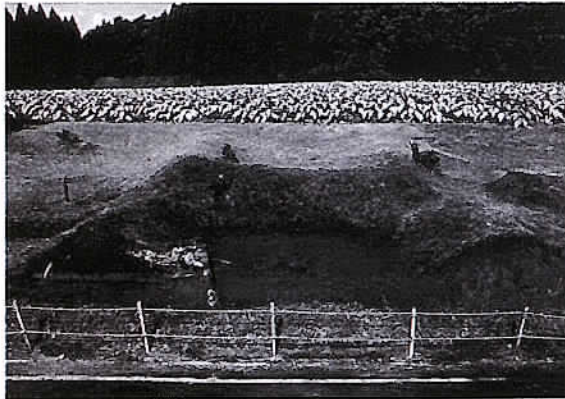


街道跡（戸口遺跡）

けんもつ いしだたみ  
**監物石畳 (緒方町冬原)**

岡城と木浦方面を結ぶ街道で石畳が発見されています。幅は1.5m、延長約50mにわたって板石が敷かれており、斜面で滑りやすいために整備されたと考えられます。また、付近に道標があり、「岡より三里」と書かれていたと伝えられています。

『緒方町の文化財』 1998 緒方町教育委員会



二本木茶屋場跡

**二本木茶屋場跡  
(大野町大原)**

岡藩主ゆかりの休憩所として整備されたといわれています。土塁で囲まれた空間と井戸跡が見つかっています。

『二本木遺跡』 1998 大分県教育委員会



監物石畳の検出状況



岩戸一里塚 (清川町白尾)

**一里塚 (清川町天神・岩戸)**

主要街道沿いに一里 (約4 km) 毎に設けられた塚で岡城から3里の位置に天神一里塚と、4里の位置に岩戸一里塚が今でも残されています。『きよかわの文化財第2集』 1997 清川村教育委員会

こうかんまほう  
**虹澗橋 (三重町菅生)**

文政7年 (1824) に臼杵市境の峡谷に流れる三重川に年貢米輸送のため架けられた石造アーチ橋です。高さ14m、径間25.2mで、完成当時は国内最大の石橋であったといわれています。現在は舗装されていますが、道路面の下には当時の石畳が一部残っています。



虹澗橋



虹澗橋路面の石畳

## ●墓地の遺跡

### 中川久貞墓所（緒方町片ヶ瀬）

小富士山西側の山に岡藩8代藩主中川久貞公の墓所があります。儒式墓と称される形式の墓石で、寛政2年（1790）に造立されています。隣接して正室であるお久の方の落飾記念碑もあります。『緒方町誌総論編』 2001 緒方町



中川久豊・久虎墓所

### 井上なみ 小る並古・並増なみ ます墓所（朝地町近地）

井上並古は有淵とも号し、岡藩主中川久貞に仕えた家老として藩政に携わった人物です。隣に並んで息子の並増と共に儒式墓形式の墓石で造られています。

『朝地町の文化財』 朝地町教育委員会



検出された墓壙（郡山南遺跡）

### 五郎丸遺跡（千歳町）

A～C区の3つの調査区で95基の墓壙ほこうがあり、円形のものほこうと方形のものほこうがあります。墓標には墓石と自然石のものがあります。

『五郎丸近世墓地群』 2000 千歳村教育委員会



中川久貞墓所

### 中川久豊・久虎・久照墓所（緒方町寺原）

保全寺山頂にある岡藩に仕えた家臣3名の墓所があります。3基とも藩主と同じ儒式墓とよばれる形式の墓石で造られています。

『緒方町誌総論編』 2001 緒方町



井上並古・並増墓所

### 郡山南遺跡（大野町郡山）

A区に加工した軽石を墓標とした17世紀後半頃の12基と、B区に墓石を用いて六道銭を伴う18世紀以後の3基があります。時期によって墓の変遷がうかがわれます。

『大野地区遺跡群発掘調査報告書Ⅲ』 2002 大分県大野土地改良事業事務所他



検出された墓壙（五郎丸遺跡）

### 下野遺跡（犬飼町下津尾）

墓標は失われていますが、7基の墓壙が見つっています。人骨のほか陶磁器や六道銭があり、17世紀後半～18世紀のものと考えられます。

『下野遺跡 上津尾遺跡』 1997 犬飼町教育委員会



墓壙内部の人骨と磁器（下野遺跡）

### ●生産・生活の遺跡

#### 小宛焼（緒方町寺原）

山水画のある磁器染付皿などの優品が伝えられています。緒方町寺原の道路工事等で多数の陶磁器や窯道具などが見つかかり、窯跡と考えられています。最初は陶器窯として開かれ、19世紀後半より磁器も焼かれるようになったと推定されています。明治初期まで多くの日用品も作られていました。

『緒方町誌総論編』 2001 緒方町



採集された陶磁器（小宛焼）



小宛焼伝世品（個人蔵）



窯道具のトチン（小宛焼）



タコハマ（小宛焼）

#### 奥嶽焼（緒方町小原）

工事中に窯跡のほか陶磁器や窯道具が発見され、記録にある奥嶽焼と推定されています。また、三重町白谷でも窯道具が見つかり、地元では新開焼と伝えられていますが、詳しくは不明です。

『緒方町誌総論編』 2001 緒方町





採集されたトチン(新開焼)

磁器が付着した焼台(奥嶽焼)

## 石風呂

岸壁を削り抜いて上下二段式の石室をつくり、上段は5・6名程度入れる浴室で、下段は薪を燃やす火室となっています。火で熱した石の上に石菖などの薬草と水をかけ、蒸気を充満させる蒸し風呂として利用するものです。近世初頭に造られたと推定されている尾崎や辻河原の石風呂のほか緒方町内を中心に分布しているのが確認されています。病気治療や疲労回復のため近年まで使用されています。『緒方町の文化財』1998 緒方町教育委員会



尾崎の石風呂 (緒方町小宛)



辻河原の石風呂 (緒方町辻)

## 井路

各藩では年貢の増収をはかるため、溜池や灌漑用水である井路(井手)の築造など土木工事による水利整備が盛んに行われました。岡藩でも土木技術の発達を背景に緒方井路や原尻井路など様々な井路が開発され、農地を拡大して生産を高める労力が費やされました。現在でも多くの水田を潤しています。

『緒方町誌総論編』2001 緒方町



緒方上井路の水門

●近世の遺物

本格的な釉塗の陶器をはじめ、染付けなどの磁器も国内生産が開始されました。特に有田などの肥前地方の製品が数多く持ち込まれています。他にも瀬戸美濃産や関西方面など遠隔地の製作とも見られるものもあり、交易や流通の活発化がうかがえます。



播鉢・灯明皿・行平鍋・土瓶などの陶器（市場遺跡）



土製鍋（高添遺跡）



土製火鉢（高添遺跡）



碗・鉢・皿などの磁器（市場遺跡）



土製人形（高添遺跡）



土製焜<sup>こんろ</sup>炉（市場遺跡）



銭貨（寛永通宝・文久永宝・天保通宝）

## ●近代の戦跡

### 西南戦争の遺構

明治時代になり、特権的地位を失った士族たちが起こした多くの反乱のうち、最大のものが西南戦争と呼ばれ南九州一帯が戦場となりました。市内では明治10年5月に薩摩軍が侵入し、6月に宇目方面へ退却するまで市内各地で戦闘が行われています。三重町付近の山間部に政府軍（官軍）と薩摩軍が造った台場と呼ばれる陣地が数多く構築されており、その跡が今でも確認できます。

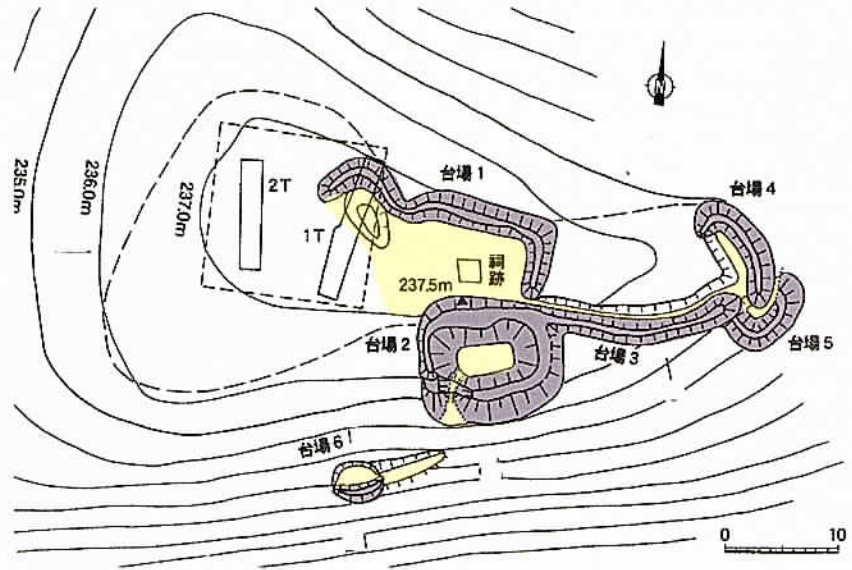


銃弾（三重町採集）

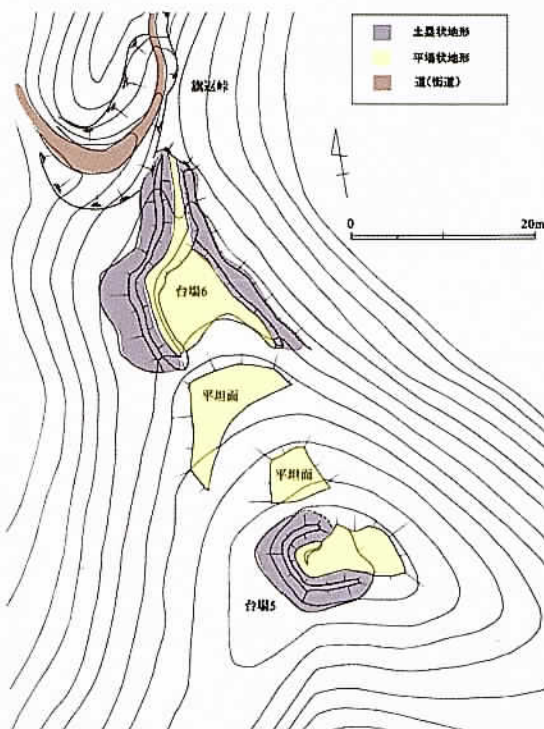
### 木ノ元山（三重町百枝）

三重市場に侵入した薩摩軍が築いた台場の一つと考えられます。土塁状の地形などが遺されています。

『三重地区遺跡群発掘調査概報Ⅶ』  
2004 三重町教育委員会



木ノ元山の台場跡



旗返峠の台場跡

### 旗返峠（三重町奥畑）

主要街道であった峠で、近くの三国峠とともに多くの台場が造られています。立てこもる薩摩軍と攻める政府軍との間で激しい戦闘が行われています。

『大分県内遺跡発掘調査概報11』 2008 大分県教育庁埋蔵文化財センター



三国峠



## 協力者機関一覧

大分県教育庁埋蔵文化財センター  
大分県立歴史博物館

### 表紙の写真

(表)清川町六種石造宝塔・高添遺跡・伝三重代官所鬼瓦  
(裏)一万田館建物跡・上尾塚お駕籠石・三反堀板碑

豊後大野市内埋蔵文化財ハンドブック③

発見!発掘!郷土の歴史(古代・中世・近世編)

発行日 平成24年3月

編集・発行 豊後大野市教育委員会

大分県豊後大野市千歳町新殿 706-1

印刷 ワークプリント